

平成21年7月31日（金）

質 疑 開 始

【市民1】 市長、連日の災害対策、ほんとうに昼夜兼行でご苦労さまでございます。

今、いろいろ合併によるシナジー効果の話も出てきたんですが、これは私見として聞いてください。

阿東町との合併という問題、まさに今まで1市4町で仏をつかって魂を入れようとしているわけです。その中で、阿東町という問題を考えたときに、阿東町は人口が今6,000ちょっとです。実際は2万人から6,000人の経緯があると思いますけれども、言うなれば小郡という交通の要が南側にあるわけです。広域な状態になったときに、北へ行けば阿東町なわけです。阿東町は、道路事情から考えても、ご承知のように315とか489、いわゆる山口県でいう篠目線という、非常にアクセス、いい道路形態になっていると思うんです。

そういう状態の中で、徳地のほうは今トンネル1個で行けるんです。ところが阿東町は、市長はご存じかと思いますが、木戸山という大きながらが、実はあると僕は思うんです。このたびも、あの急傾斜地を抱えて、あそこで何も起こらなかったというのが、ほんとうに国交省は随分対策をやっているなど感じていたんですが、いつ起きてもおかしくない状態が木戸山。越えるに越えられないという状態が、おそらく近い将来起きてくるのではなかろうか。

であれば、合併ということで、いろいろな成長エンジンの話が出ました。まさにそのとおりですから、木戸山の整備をやらないと、いろいろなことに魂を入れようと思っても、耕作地も山口県1位、森林面積も山口県1位といっても宝の持ち腐れになる。いわゆるコミュニティをやるということは、人間が交流しないといけないわけです。交流ということは、簡単にアクセスできるということで、今の状態でこのまま10年いっても、いつかはあそこが越すに越せない大きな峠になってくるんじゃないかなと思います。

ということで、木戸山は、関門トンネルをつくって3年後に直轄事業でトンネルを掘ってるはずですが。だから50年はたっていますから、何とか国に働きかけて、新しいルートで開発していくのか、もっと改良できる点がないのか、この辺を検証しながらもっと越し

やすい道路にすれば、まさに南北が非常に人の交流が始まっているいろいろなシナジー効果が出てくるのではなかろうかなど。その辺についてどう考えておられるかということをお聞きしたかったんです。以上でございます。

【市長】 おっしゃられるとおりでございます。私も阿東町との合併ということになると、9号線の問題が一番の課題だと思っております。合併協議を進めている中で、何度か県に対しても、このあたりについて要請、要望、今後の見通しはどうですかということをお尋ねし、またそうしたことから第一優先で取り扱ってほしいと申してきております。

そうした中で、特に木戸山につきましては今の路線を強固にするという形が一つはあります。そして、もう一つは、場所を変えてやっていくという計画も、常に水面下ではあるわけでございます。そうしたものを選択していくようになると思います。それともう一つ、バックアップラインといいますか、仁保を越えるルートなども、非公式にはいろいろ既に検討はされております。

そういったことを含めまして、特に合併ということになりますと、合併新法、合併特例法でも国の責務ということが明確に書いてあります。合併等を進める場合において、国や県は支援しなければならない。こういう責務も法律の中にありますので、合併ということになれば、私どもはそれを強固にアピールする、または国へ迫るということは可能となってくると思います。

【市民1】 今、勝坂の262の防府のトンネル。勝坂が崩壊したときに、防府にどう通ずるかというので、50年ぐらい前に幻の県道で、江良山をどうこうするという話を私は現職のときに聞いたことがあるんです。なるほど、ええ考えじゃなと思ったけど、結局幻で終わったんです。で、このたびの災害が起きて、実際に山口から向こうに行けなくて、相当いろいろな形になりましたけれども、阿東町がそうならないようにというのが私の意見です。これは、ぜひ国にひとつ働きかけてください。それが山口も阿東町も、地域の者がみんなよくなることだと私は思います。

一方では、広域の道路萩小郡はもうできよるわけですから、あれに近いものとは言わんですけれども、あの区間だけでもやると、非常にいい国道9号線になると思います。

【市長】 確かに、小萩道路も大分、用地買収も進んで、国体までは間に合いませんが、おそらく4、5年後には小郡から萩までは高規格道路が結ぶと思います。あれを見れば、当然9号線はしかるべきだという気がいたします。今、江良のところの話が出ましたが、ちょうどあそこは大きいため池があるところで、あの路線をめぐり、どうするかいろいろ

検討されたようです。諸先輩から私どもがお聞きしております。

ちょっと蛇足ですが、江良のため池が、このたびの雨で非常に問題になりました。小鯖の防府の境界線のところが、皆避難指示、そしてまた大道に行くのに、道はきちんとあるのに交通をストップしたというのも、ちょうどあの通りでございます。

【市民1】 よくわかりました。

【市民2】 合併の問題で、平成合併の当初でしたら、それぞれ関係市町村の情勢分析とか経済分析とかいろいろ含めてあると思うんです。しかし今、阿東は陸の孤島になったというわけではないんですけれども、萩からも、言葉で言えば見放されたような形で、今世界が一つになろう、日本も一つになろうというときに、山口が阿東を見放すということは考えられない。私は、阿東が希望されるならば、嫁入りではないけれども、裸でおいでと、おじいちゃん、おばあちゃんから一緒に連れておいでと、借金も見てあげようと、そんぐらいの気持ちで山口市は快く迎えるべきではないかなという気持ちがするわけです。

阿東のために山口の財政を出すことになるということがあるかもしれませんが、私は詳しいことはわかりませんが、山口の財政そのものは、例えば100あるとしたら50は交付税とか補助金とかで、残りの50についても、県内の150万県民がいろいろな山口に来られたり、会議をやられたり、全県からここに来られているいろいろやられる中で、経済投資というか、いろいろと経済的な面が動いているんです。ほんとうの今までの10万山口市民とか16、7万市民とかの税金というのは、微々たるものと言ったら怒られるけれども、占める位置というのは低いわけです。

私たちは日本の全体で支えられてきておるし、特に県内の多くの関係から支えられているわけですから、私は阿東合併の問題については快く受けながら、合併には、市長が冒頭に言われたように、経済効果を含めてデメリットもメリットも確かにありますけれども、デメリットの問題はそれなりに十分検証しながら、一つ一つ乗り越えていかなければならない。すべてがバラ色にはならないと思うわけでございます。

そういう意味では、別にごまするわけではないんですけれども、今市長が説明されたことを初志貫徹をしていただきたいというのが素直な気持ちです。

これは、この前、市長がここで交流されたときに発言したかった内容なんですけれども、またよろしくご検証のほどお願いしたいと思います。

【市長】 どうもありがとうございます。県都山口市の責務という考え方も、私どももあるだろうと思っております。山口県都がここまで発展してきたのは、やはりかつての5

6市町村が山口市へ集まって会議をし、イベントをし、いろいろな形で県都を盛り上げてきた。そうしたことに対する責務が、私どもにはあるだろうと。責務だけで合併するということではありませんけれども、阿東町につきましては、萩のほうという、かつての郡部の関係はありますが、今現実的には、やはり山口市との一体化のほうが強いつながりがある圏域であろうと思っております。

そうしたことの中で、片一方では阿東町が過疎地域である、農山漁村地域で中山間地域であるという中で、山口市と合併しても継続して国家的な支援措置を将来にわたって継続してもらおうということについては、国、県に対して、私どもは強く要請していこうと思えます。そうした形ができれば、山口市にとって財政的にあまり重荷になることも避けられると思っております。

【市民3】 広域合併のときに市役所を小郡に移すということが大きな課題だったんですが、わしらここの人間は、市役所はあっちに行ってもらいたくはないけれども、わしらの親戚等もおってくれるんじゃないかということも、会うたら話をするときがあります。その後、どうのように話が進んだのか。山口市も金がないことじゃから、そう簡単に移転できるわけじゃないし、移転したら北が寂しゅうなるからと思うんですが、その辺、何か話がありましたら。

【市長】 そこまでいい話が進んではいないのが結論でございます。おっしゃられるように、1市4町が合併するときに、新山口駅周辺を適地とするという附帯決議がありますので、私どもはやはり尊重していくというのが筋だろうと思えます。尊重していかなければなりません。

しかしながら、今、私どもはこういった財政状況で、また、都市づくりをやらなきゃいけないときに、私どもが事務をとる本庁舎が一番最後にしたい。いろいろな形の中で、まだやらなきゃいけないことがありますので、それをやっつけようと思えます。

今、本庁舎等の議論をすると、かえって混乱し、いろいろな仕事ができなくなります。そうしたことを含めて、しばらくは私は本庁舎の問題については触れないようにしながら、まずやらなきゃいけないことを進めていきたいと思っております。

【市民3】 はい、わかりました。

【市民4】 7月21日の豪雨についてでございます。寺領川は、川は昔のままの川でございます。以前の台風で山の木は倒れたまま、あるいは川に流されておるという状況でございます。このたびも、直径30センチぐらいの木が流れておったり、あるいは2メートル

ルぐらいの石が流れたり、あるいはこまい石もたくさん流れておって、川が以前より非常に浅くなっております。さらに、435号線ができたことによって、今までは木の根っとか葉っぱが一たん雨を吸っちゃったけれども、そこがアスファルトになって、鉄砲水となって流れておるという状況です。

私の家の前に橋がありまして、今まではそういうことはなかったんですが、このたびは、その橋の上に2メートルぐらいに水が上がったという状況でございます。今朝測って見たんですが、橋の高さも1メートル40から50ぐらいしかないんです。それで、赤田1号線の道の高さも1メートル40から50ぐらいの高さです。

前の家の方が橋をつくられたとき、基準がどうじゃったかということはわかりませんが、その辺の現況をまた調査してもらって、石をどけてもらうかどうか、早速どうか検討を考えていただきたいということが一つでございます。

もう一つ、今、寺領川が500から600メートルぐらいありますが、半分からは、いわゆる申請によって、もちろん土木課の方が調査をされ検討をされて、その稟議によって上司の方が決裁をされる、あるいは、市議会でもその辺を検討されたということで、工事の7、8割方ぐらいはもう完成しております。もう2割ぐらいは、今年の秋が終わってやると聞いております。

しかし、その工事をおやりになるときに、寺領川全体を見て検討されたものかどうか、あるいは土木課の上司の方、あるいは市議会の建設委員の方、こういった方々も現地を見られたかどうかということです。いや、これはこっちも危ないじゃないかということがあったのかどうかということです。

個人的な考えですけども、今工事中のところの石垣はしっかりしておった、それほど危険はあったのかどうかという。そこをやるということになると、今まで非常にええ石を使ってちゃんとやってあるところを壊して、またさらにいいものをこさえられたということは、非常にいいことでございます。だけれども、半分から上のほうも、実際には1メートル30から50ぐらいしかないところがあって危険性が非常に高いということでございます。その辺がどうであったろうかということの2点をお願いしたいと思います。

【市長】 わかりました。今おっしゃられた、橋梁のところ、今1メートル40ぐらいしかないというところ。これは、早速私ども帰りまして、そっちのほうの調査をさせましょう。今、1メートル40のところをどこまで浚渫等ができるか。浚渫ができないということになると、逆に堤防、橋を上げるのかとか、いろいろ検討しなきゃならないと思

ますので、少し検討させてもらいます。

あともう一つの寺領川ほうです。今、工事中というのは確かに私も知っておりますが、おっしゃられたような形でよく検討したのかということについては、もう一度私も帰りまして、よく聞いて、よく検討したのかということをはっきりとめてちょっとみんなで協議をしようと思います。先ほど言いました石垣の問題等も、もう1回現地をきちんと専門家の目で見てもらいます。ただ、そのときにはお知らせして、中へ入っていただいて一緒に協議をしたほうがいいと思いますので、ご要望を聞きながらやりたいと思います。また、今中断しておりますけれども、秋が終わりましたらまたやり出します。今ちょっと水の問題等がありますから、中止しているんだろうと。中止ということはないですが、時期的にちょうどいい検討時期だと思いますので、このたびの災害があったから、余計いい検討時期だと思います。また早いうちにご相談したいと思います。

【市民5】 資料にあるんですが、阿東町との合併については、県の行政指導とかいろいろあって、これは避けて通れんような状況なので、もういいと思うんです。私はもろ手を挙げて賛成ではないけれども、助け合いの精神で、これはいいところが悪いところを抱き合っていないか。防府市のように自分のとこだけいいというのは地域エゴみたいな感じがありますので、合併については賛成で、進んでいただいていいと思うんです。

それから2点目で、この間の朝田の浄水場の件ですが、あれはつくる当初からああいう状況になるということはわかりきっていたと思うんです。あれは行政の怠慢ではないかと思うんです。あそこに昔からおられる人は、1メートル以上に土地を上げて家をつくっていたと思うんです。大体海の底ですからね、昔は。それで、小郡町だって、今できているところは皆海の底ですよ。50年ぐらい前は、あそこは皆海の底だったんですから、あそこへつくられるということ自体、ちょっと私は心配なんです。

それはまあそれとして、ポンプ場の周りには刑務所のような高い擁壁をつくって、水が入ってきたときはポンプでくみ出すような形にしないと。私らは当初から言っておったんです。あそこも低いところだから、榎野川なんかが決壊すれば、当然あそこはみなつぶれてしまう。できてから20年以上になるんじゃないですか。あれは、もうほんとう行政の怠慢だと思いますね。責任とってもらわないけん、どなたかに。局長か市長か、まあそれはその辺のところになると思いますけれども。

まだあるんですが、例えば、職員の勤勉手当ということで6月とか12月に支払われてますが、公務員が一生懸命働くことは当たり前のことであって、勤勉手当という項目は給

与一本にされたらいいんじゃないかと思うんです。あれ、何で0.75とわざわざ分けて勤勉手当を出すのか。市の職員になったら15、6日ぐらいの休暇が与えられていますね。それで1年ごとに1日ずつ増えて40日ぐらいになります。そうすると、市の職員は2日行ったら休みというような形になって、これは今のような不景気の折に、まことに。でも休まないで職員組合がやかましゅう言うということも聞いております。市長さんも公務員上がりで、長年そういうところでやっていて、職員組合からの推薦を受けられて市長になっておられるから、そういうところはなかなか難しいじゃろうと思いますけれども、腹くくってその辺のところはちょっとやってもらいたいと思います。

それともう一つ、市長さんは4年前には防府市との合併をすぐやると。で、4年で見通しがつかんときにはもうやめると言っておられましたんで、大体市の合併問題というのは、偉いさんの処遇問題です。だから市長さんも見通しが今のところないようでしたら、松浦市長さんに、合併したらあなたに一番初めの市長にさせるというぐらいの話を持っていったらどうやろうかと私は思うんですがね。あなたはそういうふうに言われて当選されたんじゃないから。

3月議会のときに出馬するような話を聞きましたんで。吉敷にも藤本議員さんがおいでになるので、この場でいろいろなことは言ってもらわんでいいんですけども、ちょっと私がおもしろくないんで、その辺のところは納得がいくように説明してもらいたいと思います。

それから、徳地のサッカー場の問題にしても、私はいろいろ問題があると思うんです。災害の特例債とか何とか、いろいろそういうところに使えるのかもしれないけれども、小鯖地区のああいふところに使うとか、浄水場には周りに刑務所のように擁壁をだ一つとつくて、水が入ってこんように、入ってきた水はそれこそポンプではき出すような形にして、市民が困らんようなところに金を使ってもらいたい。同じ税金を使こうてやるんですから。国が出す、県が出すと言うても最終的には全部国民の税金なんですから。税金の使い方というのは、国が出す、県が出すから言うて、それぞれが何やかんや要望を言うてやってきたが、それはどこの市町村もそういう形でやるんですから。今後民主党が天下とればちょっと変わるかわからんけれども、その辺のところをです。今5時過ぎておりますから、返事のほうはようございます。また今度藤本議員さんにでも。以上であります。

まだ、言いたいこといっぱいあるんですけども、時間がきちゃったので今日は控えます。

【市長】 わかりました。ごく簡単にだけ申し上げておきます。

勤勉手当等云々につきましては、私どもカットすべきところはカットしますし、いろいろ検討があるんですけれども、年間報酬制度にしていくという国のほうの検討ということもあります。そうした方向の中で、これはかつての慣習等で、いろいろな手当がたくさんあって、今、整理しております。山口市もいろいろな手当をカットしていきながら、もっとわかりやすい給料制——わかりやすいというのは、市民の皆さん方にわかりやすいような給料制へ進んでおりますし、またこれからも進めていきます。

それから、年休のとり方でございます。組合のほうは、やはり年休というのは与えられている権利だからという形を言われたことは確かにありますけれども、現実には、組合員であろうと組合員でなかろうと、そんなにたくさん年休がとれるような状況にありません。私は、そういった意味では申しわけなく思っております。かなり仕事が多いんで、現実的には40日とれるという話はなくして、年休をとらないからどんどんどんどん蓄積してきておるとというのが現実ではございます。ですから、10日以上も年休をとっているかという、それはなかなかとれない状況です。個人差はありますけれども、この辺は情報として、おそらく給与と一緒に出しておると思っています。平均的にどのぐらいとっているかという情報をつけ加えて出していいかもしれませんね。

それから、防府との合併については、私はすぐにやりたいという形で言うておりますけれども、言いわけはいたしません、現状は非常に難しい状況にあるのは確かなんです。ただ、松浦さんが市長をやるとかどうのと言うたらできるという形であれば、私はすぐでも言えますけれども、そういった形だけではない、やっぱり市民との問題もあります。この辺は、いろいろな事情がございますので、私も検討してまいります。ただ、早いほうがいい。将来的にわたって、ここに30万都市をきちんとつくっていかなければ、山口市だけの問題ではなくして山口県の浮沈にかかわると思います。それをお互いに理解し合わなければならぬと思っております。

それから、徳地のサッカー場についてはいろいろございますけど、一つだけ言わせていただきたいのは、ああいった中山間地域に交流人口を増やしていくということになりますと、どうしてもこ入れが必要になります。私、いろいろなところに行ってこの問題に当たるんですけれども、約2万人、3万人の交流人口を増やしていくという形をとる計画なんですけれども、山口市の方々があそこへ行って交流人口になるというのがすべてではないんです。要は、山口県全体のサッカー人口が、あそこで合宿をやる、そして、合宿と

交流試合をやるサッカー場ということで、国立少年自然の家が500人規模の宿泊ができますので、これとタイアップしながら合宿所として活用する。そして、国立少年自然の家も、あれは夏休みはあいているんです。通常は小中学校の教科としての野外学習ということでウイークデーは使いますから、夏休みと土日があくんです。ですから、そういったものと調整しながら、下関から岩国、周南など、いろいろなところの人が交流試合を通じて合宿するという山口県にはなかった施設なんです。

国際大会とか国内の大会だとか、山口県のいい大会だとかをやるサッカー場でありますと、むしろ新山口駅の周辺とかに置いて、観客席が多い、当然、一番観客席があるサッカー場になるんです。しかし、あそこはそういったサッカー場ではないんです。合宿等をしていただくサッカー場。そうした形の中で、あそこの中山間地域の持つおる食糧供給を波及効果させていこうということですので、ご理解をいただきたいと思います。また、そういった成功例をつくっていくというのが全体の中山間地域の振興になっていくだろうと思っております。

【市民5】 言っていることはいいんですけども、それは投資対効果の問題ですよ。それから、そういうので行政の人はだれも、最後に問題があっても責任とられませんよ。

【市長】 いや、それは我々のほうでも責任をとっていきますけれどもね。

【市民5】 市長さんもあと何年やられるか知らんけれども、問題が出るのは何年か先のことで、そのときの問題をだれも行政の方は責任をとられない、議会もとられない。

それはもう言いません。済みません、皆さん、言いたいこと言いまして。私のために、時間が経過してしまっ。

【市民6】 先ほど、市庁舎の建設のお話が出ましたけれども、私は全く賛成でございます。この先、厳しい状況になることは目に見えておりますので、建物をあそこに持って行くために大金をつぎ込むというのはよくないと思います。せっかく今、こうして各地に立派な交流センターがございますので、仕事はそちらのほうに分散して、大きな建物を建てて何をするかということになりはしないかと思っておりますので、今、市長さんが当面は考えておられないということをお聞きしまして、安心しました。お願いします。

【市長】 どうもありがとうございました。今申しましたとおり、まだまだやらなきゃいけないことが、ほんとうにたくさんありますし、やることにおいて地域づくり、あるいは都市の活性化に結びつくといった事業を優先してやっていこうと思っておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

【市民7】 ちょっと次元が違った立場から一言お聞きいたしたいと思います。

実は、ご存じのとおり町村合併というのが昭和26年ごろから始まりまして、大部分のところは町村合併はでき上がりました。長い年月がかかりましたけれども、まだ独立でおられる、例えば岩国でいえば和木町とかが各所にございますけれども、これはさておきまして、私が非常に残念に思っておりますのは、この周防山口は毛利様が治め始めて一丸となって歴史と県土を守ってまいったわけでございます。そして、ご存じのとおり維新において日本が変わりました。維新の発祥の手を挙げたのは、先駆けをやったのは我が山口県です。そして、それに乗ってきたのが、ご存じのとおり鹿兒島なり土佐なり、いろいろなところがあるわけです。

それはさておきまして、非常に肩身が狭い思いがするわけです。なぜかといいますと、今のときこそ山口県はもうできていなきやいけないものがあるんです。というのは、中核都市についてです。今、政令指定都市が全国で18あります。それから、中核都市が41、特例市が41あるわけです。山口県のことを考えてみますと、この特例市に下関がかかっておりましたけれども、昇格をしまして中核市になりました。したがって、特例市は山口県にはないわけです。ほかの県も、島根とか鳥取とか特別に人口の少ないところはなかなか難しいと思いますけれども、山口県は、県庁所在地である山口市が一日も早く中核都市にならないことにおいては、市長も、また知事も全国の市長会議、知事会議に出て行くのに肩身が狭い思いが大いにあると思うんです。早く機運がまとまりまして、一日も早く中核都市、人口からいいましても特例都市にしっかり得ないかもわかりませんが、中核都市、県庁所在地という方向で視線を先にやって、もっと先を見つめて頑張ってもらいたいと思います。

先ほど松浦市長がかわればいいじゃないかと、渡辺市長が手をおろせやという話でございましたけれども、それはどこまでもご冗談でございましょう。山口市民は、おそらく防府のじらばっかし言うてきておる市長に任すをよしとはしないと思います。頑張ってください。

ありがとうございます。終わります。

【市長】 どうもありがとうございました。おっしゃられるとおりで、中核市をどうしてもつくり上げていこうと思います。そのためには、阿東町との合併、防府市との合併、またそれ以上のことを考えていかなければいけないかもわかりません。ここの県央部に30万人以上の中核市ができるということは、ものすごく大きな意味を持ちます。山口県全

体を救うことができます。そして、雄たる山口県が存在して、福岡、広島と結節することによってともに発展するという責務を私ども山口市は負っている。そのためには、中核市というのが私は一番大事だと思っております。これからも、そのために一心に取り組んでいくつもりでございます。

合併そのものにつきましては、先ほどありましたけれども、防府市さんとのタイミングの問題もございますので、私はいいいタイミングは必ず来る、世の中はそのように動いてると信じております。そうした方向でタイミングを逸しないような形で進めていきたいと思っております。また、ご理解とご協力を賜りたいと思っております。

【市民8】 この間、私のところで少し川が崩れたりして、市のほうに対応していただいておりますのでいいんですが、前々から小郡のほうに通っておりましたら、例えば、榎野川です。ずっと小郡あたり昭和橋近くを通ると、川の中にずっと樹木があるんですね。そういう状態がずっと続いていて、国の河川ですから行政は何をしているんだろうかと思っておりました。満潮があったからあれだけ水没したとかいろいろあったのかもしれませんが、見越して、川を浚渫しておれば、あれほど大きな水害にはならなかったんじゃないかと思っております。仁保や大内も同じかもしれません。これは国でやることかもしれませんが、市が働きかけてやっていくことによって、将来、地区民が、市民が安心してできるようになっていくんじゃないかと思っておりますので、済みませんが、市のほうの力でお願いします。

【市長】 確かに、榎野川本流だけでなくして、いろいろな河川の改修が急がれるというのは、このたびの災害で如実にあらわれました。国の管理、あるいは県の管理、また私どもが管理するというものにつきましては、役割分担等をしながら、お互いに補完し合いながら、早く改修していくように頑張っていこうと思っております。

そしてまた、先ほども少しございましたけれども、朝田の浄水場が冠水したというお話がございました。これに対しても、おっしゃられるとおりなんです。これも、私どもは早く手当をしなければなりません。周りを囲む塀をつくらなきゃいけないじゃないかということも、私ども、早急にそうした方向を今模索しながら検討を始めております。そうした方向にいかざるを得ない。

そして、もう一つは、今県のほうにも緊急に申し出ているんですけれども、榎野川を越えてこのたび冠水があったわけですから、堤防をどのぐらい上げるのかということについても、早急に検討、協議をしていこうと思っております。これは、またいろいろと複雑な問題を

抱えてまして、浄水場のほうの堤防を上げますと、今度は大学側の堤防のほうで冠水するよ。だから、両方上げないといけない。いろいろな課題を抱えておりますけれども、いずれにしても、ライフラインであります浄水場を守らなければなりませんので、私どもは早急にそういった方向をとろうと思います。

そしてまた、あそこには榎野川だけでなくして、こちらから2本河川が出て、非常に複雑な河川体系になっております。先ほどご説明がありましたけれども、あの周辺を見ますと、昔の人は石垣をついで高いところに家をつくっておられる。今ごろの家は、その石垣の下のほうに家がありますから、このたびは冠水しております。昔の人のそういった状況というのを私は目の当たりに見たような気がしております。そうしたことを思いながら、もっと私どもも検討を深めてやっていこうと思いますので、よろしくお願いします。

【市民9】 時間ぎりぎりになりましたが、今日は、大変、市長さん、水防本部、災害本部をおつくりになられて、先ほどからお見受けすると顔色も何か紅潮しておられるからお疲れになってるんじゃないかと思います。今日はそれにもかかわらず、吉敷にこういう移動市長室を設置いただきまして、ありがとうございます。

1市4町の合併からいろいろ縷々ご説明いただき、またこのたびの阿東町との合併のご説明をしっかりといただきました。私どもは、半分わかって、半分わからんような、合併していいか悪いかというのも、よくまだ判断できませんが、これからじっくり我々も勉強していきたいと思います。

それも一つおきまして、21日からの大雨がございました。吉敷もよそに例に漏れず、私はここに70年近く生まれて育っていますが、初めての、46年、47年の大雨のときに比して以上の雨かなと受けとめております。随分、河川改修等もやっていただいて、吉敷はまあまあ、小鯖とかよその地区に比べると被害は少なかったようには思いますが、件数にしたら100件近い被害が出ております。

先ほどから赤田の方も言うておられましたけれども、やっぱり改修しておかなければ、次にどんなことが起こるかということもございますので、大変お忙しゅうございましょうが、ひとつ、できるだけ早く地区民との協議に入って、方向性をつくっていただくということでご尽力をいただきたいと思っております。

それともう1点、交流センターの充実というお話を私も初めて聞かせていただきましたが、ただ充実という言葉だけでなく、やっぱり充実し、地域交流センターに力を持たせるといふことになると、それらの設備も必要かなというように我々は思っております。ど

この地区も同じと思いますが、この建物だけでいいかどうかということも含めた検討をしていただいて、ひとつ地域のため、市のためにご尽力いただくといいかと思います。

今日は、お疲れのところありがとうございました。最後になりましたが、お礼を申し上げます。

— 了 —